

創造産業による都市再生：  
大都市《周縁》を連鎖的に再生させる「アーキペラゴ・アーバニズム」試論  
Urban regeneration by creative industries  
Revitalization of urban peripheries through “Archipelago Urbanism”

山村 崇（早稲田大学高等研究所 講師）

日本の都市は、既に脱成長・縮退の時代に入っているが、都市の縮退は、都市外縁部から順を追って生じるのではなく、都心近くを含めて斑状に、予測不可能な形態で生じつつある。東京都心周辺でも、局所的に都市更新が停滞して高齢化が進み、生活基盤が弱体化するなど、複合的な都市課題をかかえている場所があり、迅速な都市再生が求められている。

そうした衰退するインナーエリアの再生を考える際に、鍵を握るのが、「創造産業」である。先進諸国の多くの都市は、ポスト工業社会への移行に伴い根底的な産業構造転換に直面しており、都市型製造業が集積する地域を中心として、空洞化、産業・生活基盤の弱体化などの複合的な都市課題が生じている。そうした中、成熟都市の経済を牽引する都市型産業として、「創造産業」が都市計画・政策において世界的に注目されている。

脱工業化と創造産業の台頭は、今後も継続的かつ不可逆的に進行すると考えられ、これからの都市にとって、創造的活動を下支えする環境を整えられるか否かが、その成長力を左右することになる。目下衰退しつつある地域のなかには、都市型工業が衰退して低未利用になっているエリア（住工混在地域）も多い。そうした場所には、ものづくり文化など創造性と相性の良い地域資源が多く残されており、そこに創造産業が育つような仕掛けを埋め込んでいくことで、都市再生へと導く成功事例も少しずつ出てきている。

戦後の国土計画は、地方部に多大な公共投資を行ってインフラを整備し、工業開発を推進した。多くの高速道路や工業団地が建設されたが、そこに「まち」をつくるという発想は乏しかったと言わざるを得ない。機能性が何より優先されたことで、生活の豊かさを無視した、機械仕掛けの国土を作り上げてしまったのである。翻ってこれからの時代、創造産業の従業者（クリエイティブ・ワーカー）は、通信機器を使いこなし、豊かな生活スタイルを求めて、時には国境すら越えて移動していく。産業の基本的な仕組みが転換した今、都市計画・まちづくりが産業と付き合い方も、根本的に変わらなくてはならない。いまこそ機能主義的な「工業開発」の発想を脱して、人間中心の「創造産業のまちづくり」を目指すべきである。

本レクチャでは、創造産業による都市再生の事例をいくつか紹介し、そこから、これからの「創造産業のまちづくり」のヒントとなるアプローチを抽出することを試みる。

また、縮退時代の都市再生を考えるにあたって、「アーキペラゴ・アーバニズム」という概念の導入を試みる。

今後人口縮退によって、都市は斑状に縮減し、「エアポケット」的衰退地区《周縁》だらけになっていく。そのときに、どこに《周縁》が生まれるかは、事前に予測することが不可能であり、トップダウン型の都市計画は殆ど役に立たない。従って、ボトムアップ式に《周縁》をみつけて、ひとつひとつ再生させていくことが必要となる。さらに、再生された《周縁》同士をどう繋げれば、強みを共有し弱みを補完し合うかを考え、ゆたかな網の目状の社会を作っていくことが有効であろう。

都市に次々と発生する小さな《周縁》を丁寧に発見し、「創造性」を埋め込んで再生していくことで、都市全体をネットワークされた「群島（アーキペラゴ）」へと再編集していく。そのような、あたらしい産業まちづくりの姿を浮かび上がらせたい。

山村 崇 (やまむら しゅう)  
早稲田大学高等研究所 講師  
博士 (工学)

●1980 年京都市生まれ。専門は都市計画学。早稲田大学理工学部建築学科卒業後、複数の IT 企業の設立・経営・事業統合等に従事。その後、早稲田大学大学院創造理工学研究科（後藤春彦研究室）にて大都市圏構造の変容プロセスと企業立地メカニズムの関係性についての研究を開始。2010 年 3 月、早稲田大学大学院創造理工学研究科修了、修士（建築学）。同博士課程を経て、2014 年 7 月に博士（工学）。

●2014 年早稲田大学建築学科助教、2018 年同講師を経て、2019 年より現職。現在の主な研究領域は、産業まちづくり、大都市圏郊外の変容、衰退するインナーシティの再生、健康福祉のまちづくりほか。

●日本建築学会奨励賞、早苗賞ほか受賞。主な著書に「無形学へ -かたちになる前の思考- まちづくりを俯瞰する 5 つの視座」（水曜社／共著）、「東京大都市圏における社会経済構造の変化に伴う郊外産業圏域の変容 -産業構造の知識化による事業所立地原理の変化に着目して-」（早稲田大学出版部／単著）。